

中央銀行デジタル通貨の新時代： デジタル人民元と 日本のCBDC戦略の考察

経済・ビジネス研究科 経済学専攻
経済分野 博士前期課程
2025年3月修了

夏 康智

主査 下田 真也 副査 関根 順一 金崎 雅之

研究の背景

近年の経済におけるキャッシュレス決済の広がりや金融市場における暗号資産の浸透など、金融デジタル技術の進展は著しいものがあり、その一つとして中央銀行デジタル通貨(CBDC)も中国をはじめとする一部の国では実用化されつつある。そのような中、中国ではデジタル人民元が実用化されている一方、日本におけるCBDCの導入は未だパイロット実験の段階であり、両国間の取り組みに違いが生じているのが現状である。

研究の目的

本研究は、中央銀行デジタル通貨の導入とその影響について、中国のデジタル人民元と日本のCBDC戦略を比較し、両国のアプローチや課題を分析することを目的とする。本研究におけるデジタル人民元と日本のCBDC戦略の比較分析を通じて、デジタル通貨が国際金融市場において果たす役割とその未来像について、議論を深めるための一つのきっかけにできればと考えている。

研究概要

「CBDC」とは

中央銀行が発行するデジタル通貨で「法定通貨」。
「分散型台帳」など、暗号資産と似た技術的背景を持つ。
中国では、2020年頃から各地で実証実験を行う(北京冬季オリンピックなど)。
近年は、国際貿易におけるデジタル人民元決済比率も上昇。
日本では、技術的な課題等を確認するパイロット実験を進めると共に法的な環境整備等の議論も行っている。

「CBDC」の利点と課題

利点: 従来の通貨よりも**低コスト**
金融インフラが不十分な地域へも提供可能 等

課題: プライバシー保護と資金洗浄対策の問題
災害等によるオフライン時の運用方法
金融政策に対する影響 等

成果・まとめ

中国における「CBDC」であるデジタル人民元は、北京冬季オリンピック等のいくつかの実証実験を経て、実用的に使われる段階まで来ているが、日本では「CBDC」を導入するかどうかについても未定である。実際導入することになれば、解決すべき技術的・制度的な問題点は多いが、「CBDC」と親和性の高いキャッシュレス決済の拡大など社会的には受け入れる環境は整いつつあると考えられる。

また、国際貿易におけるデジタル人民元の決済比率が上昇してくることで、国際金融市場における人民元の存在感も大きくなってくると考えられる。そのような中で日本銀行は、「CBDC」が持つ課題には慎重に対処しながらも、その導入は積極的に検討していくべきであると考える。



指導教員コメント

近年、各国で積極的に研究され一部の国で導入が進んでいる「中央銀行デジタル通貨」について、特に日本と中国の事例を取り上げて現状分析と今後の方向性の検討を行った研究である。

特に、自身でも実際にデジタル人民元を使ってみてその仕組みを確認している等、丁寧な調査を行った点は高く評価したい。今後は、さらに理論的な分析も深化させていくとより興味深い研究ができるのではないかと考える。